

埼玉大学  
研究機構  
オープン  
イノベーション  
センター

2024年度 第31号  
年 報



# 目次

## オープンイノベーションセンターの運営と組織

運営	6
組織	7

## オープンイノベーションセンターの活動報告

年間活動実績	11
--------	----

## 産学官連携推進部門の活動報告

技術相談件数/外部資金受入	18
さまざまな連携スタイル	21
技術相談について	22
共同研究について	23
技術相談パンフレット	25
3D-CAD & 3Dプリンター研修	28

## 知的財産部門の活動報告

実績	31
企業との共同研究による発明等の 取扱いに関する方針	32

## スタートアップ支援部門の活動報告

実績	35
----	----

## 埼玉大学産学官連携協議会研究会の活動報告

研究会活動報告	39
埼玉大学産学官連携協議会紹介 パンフレット	51



# オープン イノベー ション センターの 運営と組織

# 運営

## 【名称】

埼玉大学研究機構オープン  
イノベーションセンター  
(Comprehensive  
Open Innovation  
Center)

## 【所在地】

〒338-8570 埼玉県さい  
たま市桜区下大久保255  
TEL:048-858-3849  
E-mail:  
coic@gr.saitama-  
u.ac.jp  
HP:  
[https://www.saitama-  
u.ac.jp/research/coal  
ition/coic/coic\\_about/](https://www.saitama-u.ac.jp/research/coalition/coic/coic_about/)

## 【設立】

平成6年(1994年)6月24  
日

## 【目的、業務】

国立大学法人埼玉大学研究機構オープンイノベーションセンター規程(抜粋)

### (目的)

第2条 センターは、企業等の法人、地方公共団体等公的機関、他大学等(以下「外部機関等」という。)との共同研究及び研究交流を推進するとともに、本学における知的財産の創出、取得及び管理並びに技術移転の促進を図り、地域の企業等における技術革新、生産革新、経営革新、事業革新、情報革新、組織改革等のオープンイノベーションに対して中核機関として貢献することにより、本学の教育研究の進展に寄与するとともに地域社会の産業、文化、福祉及び教育の向上に資することを目的とする。

### (部門)

第3条 センターの業務を実施するために、次の部門を置く。

- (1) 産学官連携推進部門
- (2) 知的財産部門
- (3) スタートアップ支援部門

### (業務)

第4条 センターにおいては、次に掲げる業務を行う。

- (1) 産学官連携戦略の企画及び推進
- (2) 外部機関等との連携の推進
- (3) 外部機関等との共同研究及びプロジェクトの推進
- (4) オープンイノベーションの醸成
- (5) 知的財産の管理及び創出・取得の推進
- (6) 技術移転の推進
- (7) ベンチャー起業に関する啓発・教育等による本学発ベンチャー企業への支援
- (8) 地域専門人材育成及びリカレント教育への支援
- (9) その他センターの目的を達成するために必要な業務

### (組織)

第5条 センターに、次の教職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 産学官連携推進部門長
- (3) 知的財産部門長
- (4) 担当教員
- (5) スタートアップ支援部門長
- (6) 兼任教員
- (7) 特定教員(リサーチ・アドミニストレーター)
- (8) コーディネーター
- (9) その他の教職員

# 組織

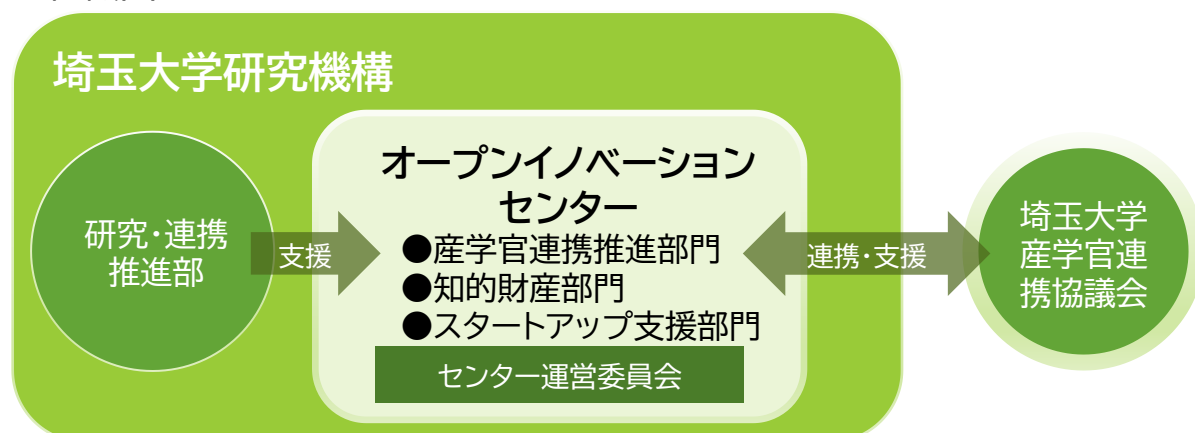
職 名	スタッフ	主要業務等
センター長／産学官連携推進部門長	小林裕一(教授)	統括、管理、監督、企画、運営、計画推進、実施、地域連携など
知的財産部門長／スタートアップ支援部門長	松岡浩司(教授)	知的財産管理運営、スタートアップに関する管理運営など
副センター長	本間俊司(教授)	統括、管理、企画、運営、計画推進、実施など
スタートアップ支援担当	中嶋泰雄(リサーチアドミニストレーター)	
	野口昌克	
兼任教員	江口幸治(准教授)	産学官連携推進、センターのオープンイノベーション醸成、運営助言など
	加藤敬太(准教授)	
	金子裕良(教授)	
	齊藤正人(教授)	
	高崎正也(教授)	
	畠山晋(准教授)	
	安積卓也(教授)	
	綿貫 啓一(教授)	
産学官連携コーディネーター	金谷康弘	技術相談、共同研究・受託研究のコーディネート業務、研修、イベント出展、地方自治体との連携、研究会支援、地域企業連携、広域企業連携、産学連携イベントの企画・運営、イノベーション土壤の開拓、大学発ベンチャーの支援、地域大学間連携、首都圏北部4大学連合(4u)活動協力、埼玉大学産学官連携協議会事業支援、オープンイノベーション醸成、3D CAD&3Dプリンター研修業務運営など
	若杉徹	
	宇田川秀幸	
	村井亮介	
	藤山斉	
	吉田哲也	
	高橋英紀	
知的財産コーディネーター	有馬百子	特許等知的財産創出、知的財産申請・出願、知的財産管理、特許紹介、技術移転、知的財産データベース管理など
	杉岡真紀	

# 組織

職 名	スタッフ	主要業務等
センタースタッフ	平野哲巳	各種イベント・技術相談受付補助、産学関連資料・刊行物作成業務、予算管理業務、勤務時間管理、備品管理、オープンイノベーションセンター研究棟施設管理、特許管理事務、ホームページ管理、文書管理、埼玉大学産学官連携協議会事業支援、先端産業国際ラボラトリー事務、さいたま市補助金事務 など
	日下明美	
	今真紀	
	山田涼子	
	長舟葉子	
	新井寛子	
	川上昌美	
	末次裕子	



## ●組織図



## ●歴代のセンター長

氏名			期間
初代	一國雅巳	教授	平成 6年 6月24日～平成 8年 3月31日
2代	河西敏雄	教授	平成 8年 4月 1日～平成10年 3月31日
3代	山田興治	教授	平成10年 4月 1日～平成12年 3月31日
4代	坂本和彦	教授	平成12年 4月 1日～平成14年 6月 9日
5代	睦好宏史	教授	平成14年 6月10日～平成16年 3月31日
6代	加藤寛	教授	平成16年 4月 1日～平成18年 3月31日
7代	高田進	教授	平成18年 4月 1日～平成20年 2月27日
8代	中山重蔵	理事	平成20年 2月28日～平成20年 3月31日
9代	太田公廣	教授	平成20年 4月 1日～平成22年 3月31日
10代	川橋正昭	理事・副学長	平成22年 4月 1日～平成24年 3月31日
11代	大澤清一	教授	平成24年 4月 1日～平成26年 3月31日
12代	綿貫啓一	教授	平成26年 4月 1日～平成28年 3月31日
13代	松岡浩司	教授	平成28年 4月 1日～令和 6年 3月31日
14代	小林裕一	教授	令和 6年 4月 1日～令和 7年 3月31日

# オープン イノベー ション センターの

## 活動報告

## ●年間活動実績

日付	時間	場所	内容	主催 共催 参加	担当	実績等
4/29 (月)	14:40-	オンライン	第1回知的財産評価委員会	主	松岡 石井・小林・松下・知財部門	
4/30 (火)	15:00-16:00	オンライン	第1回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	
5/14 (火)	16:00-17:00	オンライン	令和6年度4u運営協議会	参	藤山 石井・小林・本間・井上	
5/24 (金)	13:00-16:15	三芳合金工業株式会社	第6回 金属積層造形技術研究会	研主	宇田川 山田	参加者：14名（学外9名、学内5名）
5/28 (火)	-	-	埼玉大学産学官連携協議会 第1回運営委員会メール審議（～6/4）	研主	小林	
5/28 (火)	13:00-14:00	オンライン	第2回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	
5/31 (金)	9:00-	オンライン	第2回知的財産評価委員会	主	松岡 石井・小林・松下・知財部門	
6/12 (水)	12:40-13:10	ソニックシティビル4階市民ホール	埼玉大学産学官連携協議会 第2回運営委員会	協主	小林	
6/12 (水)	13:30-18:00	ソニックシティビル4階市民ホール	埼玉大学産学官連携協議会 第25回定期総会・産学連携事例発表	協主	小林	参加者：127名（学外99名、学内28名）
6/17 (月)	9:30-17:30	研究機構棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ①3D-CAD超入門	主	宇田川 今	参加者：3名
6/17 (月)	13:30-15:00	研究機構棟108室	第3回 自動化のための力覚検知技術研究会	研主	藤山	参加者：10名（学外8名、学内2名）
6/17 (月)	15:00-17:00	総合研究棟1号館3階セミナー室8	埼玉グリーンインフラSDGs研究会2024年度第1回研究会	研主	村井	参加者：16名（学外12名、学内4名）
6/21 (金)	9:30-17:30	研究機構棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ①3D-CAD超入門	主	宇田川 今	参加者：11名
6/25 (火)	13:00-14:00	オンライン	第3回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	
6/28 (金)	9:00-	オンライン	第3回知的財産評価委員会	主	松岡 石井・小林・松下・知財部門	

日付	時間	場所	内容	主催 共催 参加	担当	実績等
6/28 (金)	14:00- 16:15	研究機構 棟7階大会 議室	第6回 データサイエンス技術研究会	研 主	金谷 山田	参加者：17名（学外14名、 学内3名）
7/5 (金)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ①3D-CAD 超入門	主	宇田川 今	参加者：10名
7/12 (金)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ②3D-CAD 入門	主	宇田川 今	参加者：14名
7/15 (月)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ①3D-CAD 超入門	主	宇田川 今	参加者：10名
7/18 (木)	13:30- 17:00	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ③3D設計 造形入門（～7/19）	主	宇田川 今	参加者：12名
7/19 (金)	15:00- 17:15	研究機構 棟2階 第 二会議室	第1回 スタートアップ・新規事業創出研 究会	研 主	本間 藤山・山田	参加者：18名（学外11名、 学内7名）
7/26 (金)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ①3D-CAD 超入門	主	宇田川 今	参加者：5名
7/29 (月)	14:40-	オンライ ン	第4回知的財産評価委員会	主	松岡 石井・小 林・松下・ 知財部門	
7/30 (火)	13:00- 14:00	オンライ ン	第4回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	
8/2 (金)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ④3D-CAD 演習	主	宇田川 今	参加者：9名
8/2 (金)	14:00- 17:00	研究機構 棟7階大会 議室	第7回 データサイエンス技術研究会	研 主	金谷 山田	参加者：12名（学外9名、 学内3名）
8/5 (月)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ⑤応力解 析	主	宇田川 今	参加者：12名
8/7 (水)	12:40- 16:45	エプソン アトミッ クス株式 会社	第7回 金属積層造形技術研究会	研 主	宇田川 山田	参加者：9名（学外5名、 学内4名）
8/22 (木)	10:00- 17:00	東京ビッ グサイト	イノベーション・ジャパン大学見本市 2024（～8/23）	参	藤山 今	出展教員：堤田 柳瀬 津田
8/23 (金)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ①3D-CAD 超入門	主	宇田川 今	参加者：6名
8/26 (月)	14:40-	オンライ ン	第5回知的財産評価委員会	主	松岡 石井・小 林・松下・ 知財部門	

日付	時間	場所	内容	主催 共催 参加	担当	実績等
9/2 (金)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ⑦3D-CAD 超入門特別編	主	宇田川 今	参加者：9名
9/6 (金)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ①3D-CAD 超入門	主	宇田川 今	参加者：1名
9/9 (月)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ④3D-CAD 演習	主	宇田川 今	参加者：5名
9/13 (金)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ②3D-CAD 入門	主	宇田川 今	参加者：8名
9/19 (木)	10:00- 16:40	埼玉県産 業技術総 合セン ター	SAITECオープンラボ	参	小林 本間・吉田	
9/20 (金)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ①3D-CAD 超入門	主	宇田川 今	参加者：3名
9/24 (火)	13:00- 14:00	オンライ ン	第5回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	
9/27 (金)	-	-	埼玉大学産学官連携協議会 第3回運営委 員会メール審議（～10/7）	協主	小林	
9/30 (月)	14:40-	オンライ ン	第6回知的財産評価委員会	主	松岡 石井・小 林・松下・ 知財部門	
10/4 (金)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ①3D-CAD 超入門	主	宇田川 今	参加者：6名
10/10 (木)	13:30- 17:00	研究機構 棟7階大会 議室	第8回 データサイエンス技術研究会	研主	金谷 山田	参加者：20名（学外16名、 学内4名）
10/11 (金)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ②3D-CAD 入門	主	宇田川 今	参加者：7名
10/14 (月)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ⑥3D-CAD で2次元設計	主	宇田川 今	参加者：12名
10/18 (金)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ④3D-CAD 演習	主	宇田川 今	参加者：8名
10/18 (金)	13:30- 17:30	オンライ ン	センター長会議		小林	
10/22 (火)	10:00- 14:55	JST東京本 部別館1F ホール	JST新技術説明会（4u）	参	藤山	出展教員：津田 鈴木
10/25 (金)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ⑦3D-CAD 超入門特別編	主	宇田川 今	参加者：10名

日付	時間	場所	内容	主催 共催 参加	担当	実績等
10/29 (火)	10:40-	オンライ ン	第7回知的財産評価委員会	主	松岡 石井・小 林・松下・ 知財部門	
10/29 (火)	13:00- 14:00	オンライ ン	第6回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	
11/4 (月)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ④3D-CAD 演習	主	宇田川 今	参加者：4名
11/5 (火)	14:00- 18:00	総合研究 棟1号館シ アター教 室	第25回産学交流会テクノカフェ	協 主	小林	参加者：122名（学外84名、 学内38名）
11/8 (金)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ②3D-CAD 入門	主	宇田川 今	参加者：15名
11/12 (火)	14:00- 16:50	研究機構 棟7階大会 議室	防災DX研究会セミナー	研 主	金谷 山田	参加者：34名（学外26名、 学内8名）
11/15 (金)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ⑦3D-CAD 超入門特別編	主	宇田川 今	参加者：9名
11/21 (木)	11:00- 16:00	Gメッセ群 馬	東和新生会「ビジネス交流会」	参	本間 金谷・吉 田・今	
11/22 (金)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ①3D-CAD 超入門	主	宇田川 今	参加者：12名
11/26 (火)	13:00- 14:00	オンライ ン	第7回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	
11/27 (水)	13:30- 18:00	総合研究 棟1号館シ アター教 室	第2回 スタートアップ・新規事業創出研 究会	研 主	本間 藤山、山田	参加者：72名（学外37名、 学内35名）
11/28 (木)	9:00-	オンライ ン	第8回知的財産評価委員会	主	松岡 石井・小 林・松下・ 知財部門	
11/29 (金)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ⑥3D-CAD で2次元設計	主	宇田川 今	参加者：8名
12/6 (金)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ①3D-CAD 超入門	主	宇田川 今	参加者：5名
12/9 (月)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ④3D-CAD 演習	主	宇田川 今	参加者：10名
12/10 (火)	15:00- 17:30	研究機構 棟108室	埼玉グリーンインフラSDGs研究会2024年 度第2回研究会	研 主	村井 山田	参加者：23名（学外13名、 学内10名）

日付	時間	場所	内容	主催 共催 参加	担当	実績等
12/13 (金)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ⑤応力解析	主	宇田川 今	参加者：11名
12/19 (木)	13:30- 17:00	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ③3D設計 造形入門（～12/20）	主	宇田川 今	参加者：7名
12/24 (火)	13:00- 14:00	オンライ ン	第8回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	
12/25 (水)	14:40-	オンライ ン	第9回知的財産評価委員会	主	松岡 石井・小 林・松下・ 知財部門	
1/10 (金)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ①3D-CAD 超入門	主	宇田川 今	参加者：7名
1/17 (金)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ④3D-CAD 演習	主	宇田川 今	参加者：8名
1/23 (木)	13:00- 16:10	オンライ ン	2025公募説明会@埼玉大学オンライン	主	小林 吉田・今	
1/24 (金)	9:30- 17:30	研究機構 棟108室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」 ⑦3D-CAD 超入門特別編	主	宇田川 今	参加者：6名
1/24 (金)	14:00- 17:00	研究機構 棟7階大会 議室	埼玉りそな産業経済振興財団主催 令和 6年度産学官連携セミナー	協 後	小林	参加者：43名
1/28 (火)	13:00- 14:00	オンライ ン	第9回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	
1/31 (金)	10:40-	オンライ ン	第10回知的財産評価委員会	主	松岡 石井・小 林・松下・ 知財部門	
2/4 (火)	13:20- 16:55	SAITEC	第7回 金属積層造形技術研究会	研 主	宇田川 高橋・山田	参加者：40名（学外34名、 学内6名）
2/5 (水)	10:00- 17:00	さいたま スーパー アリーナ	農と食の展示・商談会 令和6年度埼玉 県農商工連携フェア	研 主	村井	
2/17 (月)	10:00- 15:40	オンライ ン ／大学会 館2階フー ンクモンス	埼玉大学オープンカンパニー （～2/21）	協 参	小林	
2/20 (木)	14:30- 16:45	機械工学 科棟ほか	群馬積層造形プラットフォーム（GAM）埼 玉大学訪問	研 主	宇田川 高橋・山田	
2/25 (火)	13:00- 14:00	オンライ ン	第10回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	

日付	時間	場所	内容	主催 共催 参加	担当	実績等
2/27 (木)	13:00- 16:00	研究機構 棟7階大会 議室	「3D-CAD&3Dプリンター研修」活用事例 報告会	主	宇田川 今	
2/27 (木)	13:30-	オンライ ン	第11回知的財産評価委員会	主	松岡 石井・小 林・松下・ 知財部門	
2/28 (金)	13:30- 15:30	研究機構 棟7階大会 議室	第3回人と協働するロボット技術研究会	研 主	藤山 山田	参加者：31名（学外20名、 学内11名）
3/3 (月)	13:00- 18:30	CORSO ホール	第1回SAITAMA スタートアップ・エコシス テムシンポジウム	主	松岡 玉井・中 島・松下	
3/6 (木)	14:00- 17:00	大学会館2 階ラーニング ルームB	第9回 データサイエンス技術研究会	研 主	金谷 山田	参加者：20名（学外15名、 学内5名）
3/10 (月)	13:30- 16:40	大宮ソ ニックス ティ9階 906会議室	埼玉県経営者協会主催 埼玉大学公開講座	協 後	小林	参加者：28名
3/18 (火)	-	-	埼玉大学産学官連携協議会 第4回運営委 員会メール審議（～3/26）	協 主	小林	
3/24 (月)	13:00- 14:00	オンライ ン	第11回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	
3/31 (火)	13:30-	オンライ ン	第12回知的財産評価委員会	主	松岡 石井・小 林・松下・ 知財部門	



# 産学官連携 推進部門の 活動報告

# 技術相談件数 外部資金受入

## ●技術相談件数(分野別)

単位:件

年度	生物	物理	化学	機能材料	数学	電気電子	情報通信	機械	環境	建設	経済	教育	その他	合計
令和6年度 (2024年度)	7	0	36	17	0	37	31	77	20	10	1	5	3	244
令和5年度 (2023年度)	8	0	16	31	0	29	26	66	18	15	3	6	7	225
令和4年度 (2022年度)	3	0	24	36	0	39	19	66	15	10	2	2	13	229

## ●技術相談件数(月別)

単位:件

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度 (2024年度)	101	17	16	8	4	25	14	16	20	5	11	7	244
令和5年度 (2023年度)	120	13	7	13	1	17	12	14	8	12	3	5	225
令和4年度 (2022年度)	104	9	17	14	14	10	11	18	14	5	9	4	229

## ●外部資金受入(大学総計)[大学概要より抜粋]

単位:件, 千円

	民間等との共同研究		受託研究		奨学寄附金		合計	
年度	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
令和6年度 (2024年度)	174	331,783	53	424,720	482	423,107	709	1,179,610
令和5年度 (2023年度)	173	246,851	46	287,936	453	310,740	672	845,527
令和4年度 (2022年度)	168	269,451	48	366,532	459	315,082	675	951,065

## ●外部資金受入

研究課題名	採択年度	所属	研究者
<b>IJIE スタートアップ創出プログラム ステップ1 スタートアップ枠</b>			
レーザー・光学技術によるインライン全数検査を目指した表面形状検査装置の製造	令和6年度	大学院理工学研究科	塩田達俊
水生・湿生植物の音響放射を用いた水域の生態系保全ソリューション	令和6年度	大学院理工学研究科	蔭山健介
<b>JST 大学発新産業創出基金事業</b>			
アンビポーラ伝導体の低損失スピン輸送を利用した長距離相関磁気抵抗素子の開発	令和5年度	大学院理工学研究科	酒井政道
<b>NEDO グリーンイノベーション基金事業／CO<sub>2</sub>分離回収等技術開発プロジェクト</b>			
Na-Fe 系酸化物による革新的CO <sub>2</sub> 分離回収技術の開発	令和4年度	大学院理工学研究科	柳瀬郁夫
<b>NEDO 官民による若手研究者発掘支援事業 共同研究フェーズ</b>			
位置情報基盤の拡張作用によるサステナブル空港の実現に関する研究開発	令和6年度	大学院理工学研究科	間邊哲也
植物由来有用セラミドの実用化に向けた研究開発	令和6年度	大学院理工学研究科	石川寿樹
<b>NEDO 官民による若手研究者発掘支援事業 マッチングサポートフェーズ</b>			
小型魚類に生体膜電位センサーを用いた水質バイオモニタリング技術の開発	令和5年度	大学院理工学研究科	津田佐知子
卓越した乱流可視化センサを駆使したガスアーク遮断現象の解明	令和5年度	大学院理工学研究科	稲田優貴
地球観測衛星データを用いた準リアルタイム災害被害把握技術の開発	令和5年度	大学院理工学研究科	堤田成政
<b>経済産業省 Go-Tech事業</b>			
バイオイメーシング向けフェムト秒ファイバレーザーの開発	令和4年度	大学院理工学研究科	塩田達俊
高効率歯車減速機向け特殊歯面形状の革新的量産加工技術の開発	令和4年度	大学院理工学研究科	金子順一
免疫強化作用を訴求した3種の機能性米セラミド食品原料の研究開発および事業化	令和5年度	大学院理工学研究科	石川寿樹
<b>さいたま市 イノベーション技術創出支援補助金</b>			
次世代抗体VHHの多価化による分子機能の向上・改変に関する研究開発	令和4年度	大学院理工学研究科	松岡浩司
医療用可搬型吸引器に用いる静音ポンプの開発	令和5年度	大学院理工学研究科	姜東赫

研究課題名	採択年度	所属	研究者
さいたま市 高度ものづくり人材育成支援業務			
	令和6年度	研究機構	小林裕一
東京都中小企業振興公社 TOKYO戦略的イノベーション促進事業			
AIE内包蛍光微粒子製造の研究	令和4年度	大学院理工学研究科	幡野健
市村清 植物研究助成			
動的光散乱干渉画像法を用いたマイクロプラスチックの植物への毒性評価	令和4年度	大学院理工学研究科	門野博史

# さまざまな 連携スタイル

---

技術相談	本学では、企業の技術的課題に関するご相談(技術相談)を随時受け付けています。お気軽にオープンイノベーションセンターまでお問い合わせください。
共同研究	民間機関等の研究者と本学の教職員が、契約に基づき、対等の立場で共通の課題に取り組み、優れた研究成果の創出を促進する制度です。民間機関等から研究者および研究経費等を受け入れ、本学の教職員と民間機関等の研究者が、共通の課題について共同・分担して研究を実施します。
受託研究	大学の教職員が外部機関からの委託を受け、契約に基づいて研究を実施し、その成果を委託者に報告する制度です。研究に必要な経費は委託者にご負担いただきます。受託研究により発生した知的財産権の取り扱いについては、双方協議のうえ、契約書等により定めます。
奨学寄附金	本学において、民間企業、団体、個人等から学術研究に要する経費等として、教育研究の奨学を目的に受け入れる寄附金です。
特許について	本学では、知的財産権のライセンスや活用に関する支援および、それに伴う契約交渉を行っています。研究によって得られた成果の特許化、民間企業等への技術移転、開放特許の活用など、さまざまな相談に対応しています。

# 技術相談について

本学では、企業の技術的課題に関するご相談（技術相談）を随時受け付けています。お気軽にオープンイノベーションセンターまでお問い合わせください。皆様との出会いが、産学官連携を通じた地域社会の発展につながることを期待しています。

- ◆[埼玉大学 研究シーズ集]により本学の研究内容をご確認いただけます。※詳しくは[27ページ](#)へ
- ◆企業等において産学連携の経験があるコーディネーターが対応します
- ◆研究支援に関する測定・分析は、科学技術分析支援センターにて有償で対応可能です。
- ◆学内で対応が難しい場合は、首都圏北部4大学連合（4u）等の大学間ネットワークを通じて他大学教員の紹介も行っています。

①

まずはこちらへご相談ください



貴社名・部署名・ご担当者名・電話番号  
・Emailアドレス・きっかけ・相談内容  
・希望すること、など入力いただきます。

②

次に面談を行い方針を決めます



コーディネーターとの面談により、ふさわしい研究者は誰か、どのような連携のスタイルがよさそうか、公的資金は使えるのか、など大方の方針を決めます。

③

研究者とマッチングします



コーディネーター同席のうえ、具体的な話し合いを行います。合意できた内容で共同研究等の契約締結に進みます。

埼玉大学産学連携窓口

オープンイノベーションセンター産学官連携推進部門

TEL : 048-858-3849

E-mail : oic-info@gr.saitama-u.ac.jp

# 共同研究について

共同研究は、民間機関等の研究者と大学の教職員とが、契約に基づき、共通の課題について研究に取り組み、優れた研究成果が生まれることを促進する制度です。

## 研究形態

### (1) 埼玉大学における共同研究（共同型）

民間機関等から研究者（以下、共同研究員という）及び研究経費を受け入れ、本学の教職員と共同研究員が、共通の課題について、共同して行う研究です。なお、共同研究員とは、民間機関等において現に研究業務に従事しており、共同研究のために在職のまま大学に派遣される方を指します。

### (2) 埼玉大学及び民間機関等における共同研究（分担型）

民間等から研究経費を受け入れ、大学及び民間機関等が、共通の課題について分担して行う研究です。

## 研究経費

### (1) 直接経費

共同研究遂行のために、直接必要となる人件費、謝金、旅費、設備費、消耗品費及び光熱水料等の経費です。

### (2) 研究料

共同研究員を本学に受け入れることにより必要となる経費です。6ヶ月につき1人あたり200,000円（消費税及び地方消費税を除く）です。

### (3) 間接経費

直接経費の30%に相当する経費を負担していただきます。

## 設備等

### (1) 帰属

① 負担いただいた共同研究に要する経費等により、大学が新たに取得した設備等は、大学の所有に属します。

② 民間機関等における共同研究に要する経費により、民間機関等が新たに取得した設備等は、民間機関等の所有に属します。

### (2) 設備等の利用

研究の遂行上必要な場合は、大学が民間機関等の所有する設備等を受け入れ、共同で使用することができます。なお、この場合の搬入搬出に係る経費は、原則として民間機関等のご負担となります。

## 研究期間

研究期間は特に制限はなく、複数年締結することもできます。  
共同研究が複数年にまたがる場合は、具体的な年次計画を策定し、十分な打合せを行ってください。

## 手続の流れ

1. 研究内容の協議  
最初は、オープンイノベーションセンターにご相談ください。その上で本学教員と面談・協議いたします。研究内容や課題が明確になっていない場合でも、随時相談を受け付けています。相談の際は、必要に応じて秘密保持契約を締結します。
2. 申込  
「共同研究申込書及び参考資料」を産学官連携・ダイバーシティ推進課へ提出してください。締結済みの契約を変更（研究期間延長、共同研究員・研究経費の変更等）したい場合は、「共同研究変更申込書及び参考資料」を産学官連携・ダイバーシティ推進課へ提出してください。
3. 受入の決定  
申し込みいただいた内容を本学にて審議を行い、受け入れを決定します。
4. 契約締結  
共同研究契約を学長と民間機関等の代表者等との間で締結します。
5. 研究費・研究料の納付  
本学からの請求に基づき、研究費・研究料をお支払いいただきます。

## 研究成果の取扱

知的財産権については、原則共有とし、本学と共同出願することとなります。この場合、持分は本学と協議の上、決定することとなります。また、その実施等の取扱いについては、ご要望により柔軟に対応させていただきます。

## 税制上の優遇措置

特別試験研究控除制度：企業が大学等と共同研究及び受託研究を行った場合、企業等が支出した試験研究費の一定割合が法人税額から控除されます。



# 研究者へのお問合せはこちらまで

技術動向について  
教えてほしい

〇〇教授に  
相談したい

大学の特許を  
使用したい

〇〇技術開発の  
共同研究をしたい

経営についての  
助言がほしい

開発するための  
アドバイスがほしい

大学発の新技术を  
導入したい

公的資金に  
申請したい

埼玉大学マスコット  
キャラクター・メジロちゃん



お気軽にご相談ください！私たちがお手伝いします。

- まずは**コーディネーター**にご連絡ください。(無料)
- ふさわしい研究者をご紹介できるよう親身になってご相談に応じます。
- 開放特許をWEBで公開しています。技術移転についてもご相談ください。

研究機構 オープンイノベーションセンター

MAIL: oic-info@gr.saitama-u.ac.jp TEL: 048-858-3849

WEB: <https://www.saitama-u.ac.jp/research/coalition/coic/flow/>



埼玉大学は、教養学部、経済学部、教育学部、理学部、工学部の5学部と大学院3研究科をもつ総合大学です。全学部対応可能です。



技術相談から共同研究等への流れ



# 技術相談申込書

申込書送付先: oic-info@gr.saitama-u.ac.jp

申込フォーム  
もあります



記入日：

企業情報	
貴社名	
所在地	
ご担当者 部署・役職・氏名	
ご担当者 メールアドレス	
電話番号	
貴社 URL	

相談内容	
きっかけ	<input type="checkbox"/> イベント ( ) <input type="checkbox"/> 他機関等からのご紹介 ( ) <input type="checkbox"/> 埼玉大学 研究シーズ集 <input type="checkbox"/> 埼玉大学ホームページ <input type="checkbox"/> 教員から <input type="checkbox"/> その他 ( )
相談内容 <small>技術課題、困りごとなど、具体的に ご記入ください。</small>	
希望する連携スタイル	<input type="checkbox"/> 共同研究 <input type="checkbox"/> 公的資金獲得 <input type="checkbox"/> アドバイス <input type="checkbox"/> その他 ( )
相談分野	<input type="checkbox"/> 生物 <input type="checkbox"/> 物理 <input type="checkbox"/> 化学 <input type="checkbox"/> 機能材料 <input type="checkbox"/> 数学 <input type="checkbox"/> 電気電子 <input type="checkbox"/> 情報通信 <input type="checkbox"/> 機械 <input type="checkbox"/> 環境 <input type="checkbox"/> 建設 <input type="checkbox"/> 経済 <input type="checkbox"/> 教育 <input type="checkbox"/> その他 ( )

埼玉大学 関係者	
<small>当該技術相談について、希望する教員もしくは連絡をとっている埼玉大学関係者がありましたらご記入ください。</small>	
氏名・所属	

埼玉大学 研究機構 オープンイノベーションセンター  
〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保 255  
TEL: 048-858-3849  
E-mail: oic-info@gr.saitama-u.ac.jp



## 『埼玉大学 研究シーズ集2025-2027』の発刊について



こちらからご覧いただけます。  
▶<https://www.saitamau.ac.jp/coalition/coalition/seeds/>

埼玉大学オープンイノベーションセンターでは、企業や経済団体、産業支援機関、金融機関、自治体などと連携しながら、産学官連携活動の活性化に取り組んでいます。外部研究資金による研究や共同研究の推進を通じて、大学の研究成果を広く社会に還元することを目指しています。

このたび、その一環として『埼玉大学 研究シーズ集2025-2027』を発刊いたしました。本シーズ集では、本学の研究者が取り組む多様な研究テーマや技術シーズをわかりやすく紹介しており、企業や地域社会との連携を促進するための情報源としてご活用いただける内容となっております。研究シーズ集は、キーワード検索機能を備えたデジタルブック形式で、本学のホームページよりご覧いただけます。

また、冊子版をご希望の方には郵送対応も行っておりますので、お気軽にお問い合わせください。研究者の活動にご関心をお持ちの方や、大学との連携にご興味のある方からのご連絡をお待ちしております。

# 3D-CAD & 3Dプリンター 研修

今年度の3D研修は、昨年度に引き続き、3D-CADが初めての方や独学でつまずいた方にも分かりやすく、また、既にスキルをお持ちの方には実践的な機能操作を学べる機会として開催しています。講師陣は、埼玉大学大学院理工学研究科の阿部准教授、埼玉大学研究機構総合技術支援センターの技術職員、そして実務経験豊富な企業内技術教育の専門家で構成されており、3D-CADの入門から応用まで幅広く対応できる体制です。受講者の多様なニーズに応えるため、8つの異なるコースを設定しました。そのうち2つは新設コースで、「3D-CAD超入門特別編の「プログラミン

グ」コースと「知恵と工夫で自助具作成」コースです。特に、経営者の方や自己啓発の目的で業務に長時間の空きを作ることが難しい方に向けて、短期間でスキルを習得できるよう配慮したコース設計となっており、好評をいただいております。スキルアップを目指す方には、3D-CADの静的応力解析機能の使い方を学ぶ「応力解析コース」も根強い人気があります。本研修を通じて、技術系の知識がない方でも自信を持って3D-CADを操作できるようになることを目指しています。キャリアの発展に役立つスキルを習得し、新たな挑戦に備える一助となれば幸いです。





# 知的財産 部門の 活動報告

# 実績

## ●発明件数

単位:件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
発明件数	23	39	29	31	41

## ●特許取得及び管理状況(実用新案含む)

単位:件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
出願件数	25	30	24	29	35
登録件数	26	20	22	16	10
消滅件数	29	47	44	41	54
保有件数※	315	310	325	321	313

※出願、登録及び消滅件数は国内のみ、保有件数は、外国保有特許も含む。

## ●知的財産権ライセンス等収入

単位:件, 千円

実施許諾	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
件数	20	15	13	14	14
金額	2,207	747	731	1,281	6,826

単位:件, 千円

譲渡	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
件数	9	11	12	14	14
金額	2,383	2,118	2,362	2,166	6,496

※知的財産権とは、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権、その他（育成者権、回路配置利用権、ノウハウ等）とし、MTA（試料提供契約）を除く。



## 国立大学法人埼玉大学における企業との共同研究による 発明等の取扱いに関する方針

平成31年3月22日  
研究機構長裁定

本方針は、国立大学法人埼玉大学(以下「本学」という。)と企業との共同研究の成果により得られた発明及び発明から得られる権利(以下「発明等」という。)の取扱いに関し、本学の基本的な考え方を示すものである。

### 1. 権利の帰属(持分)について

発明等は、本学及び共同研究の相手先企業(以下「パートナー企業」という。)に所属する各発明者の発明の貢献度により、その帰属及び持分を決定する。

### 2. 発明等の活用に関する協議について

本学は、発明等の活用に関し、次の①から⑤までの考えに基づき、パートナー企業と協議する。

#### ①発明等の活用に関する意向の尊重

当該発明等は、パートナー企業との共同研究の成果として得られたものであることから、その活用に関しては、パートナー企業の意向を尊重する。

#### ②第三者へのライセンス活動

大学は、研究成果を知的財産権の形で自ら主体的に管理し、効果的に社会に還元していくことが求められており、その責務を果たすべく、本学は、パートナー企業の意向を尊重しつつ、第三者へのライセンス活動を行う。

#### ③発明等に係る出願等費用の負担

国立大学法人である本学は、民間企業と異なり、自ら商品化又は事業化して利益を得ることはないから、当該発明等を活用するパートナー企業に対し、本学の知財貢献に係る対価として、当該発明等に係る出願等費用の負担を求める。

#### ④不実施補償及び特許法第35条に定める「相当の利益」の支払

上記③のとおり、本学は自ら商品化又は事業化して利益を得ることができないことから、パートナー企業に対し、当該発明等の実施により得た収益の一部について、本学の貢献度に応じた還元(不実施補償)を求め、本学は、それを原資として特許法第35条に定める「相当の利益」を本学発明者へ補償金として支払う。

#### ⑤共同研究に係る経費負担

パートナー企業にあっては、共同研究遂行のための共同研究経費を、本学にあっては、共同研究に関する研究者等の人件費並びに研究設備等の維持、管理及び充実に係る費用を負担する。



### 3. 共同出願契約等の締結について

出 本学は、発明が創出された場合は、パートナー企業と協議のうえ、実施の条件等を共同  
出 願契約等で定める。

### 4. 発明等の独占実施及び非独占実施について

び 発明等をパートナー企業が独占実施又は非独占実施する場合は、原則として次の①及  
す ②のとおりとする。なお、実施許諾契約については、パートナー企業と協議のうえ、締結  
する。

#### ①独占実施

パートナー企業が当該発明等の独占実施を希望した場合は、それを承認する。ただし、一定の期間が経過しても、パートナー企業による当該発明等の実施が見込めない場合は、本学は、第三者に当該発明等の実施許諾ができる。

#### ②非独占実施

パートナー企業が当該発明等の非独占実施を希望した場合は、本学は、第三者に当該発明等の実施許諾ができる。なお、非独占実施の場合であっても、第三者が当該発明等を実施することが困難な場合は、パートナー企業による独占実施とみなす。

以上

スタート  
アップ支援  
部門の

活動報告

# 実績

本学が共同機関として参画している国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）事業「大学発新産業創出基金事業—スタートアップ・エコシステム共創プログラム（地域プラットフォーム共創支援）—」（令和5年度採択、主幹大学：信州大学）の円滑な運営を図るとともに、本学のシーズを活用したスタートアップの効率的な創出を実現し、埼玉地域のスタートアップ・エコシステムを構築・活発化するため、スタートアップ支援部門を設置した（令和6年7月）。合わせて、学内GAPファンドを開始した。

Inland Japan Innovation Ecosystem (IJIE)  
社会を変える大学発のスタートアップを  
創出する地域プラットフォーム～



## ●埼玉大学GAPファンド採択

研究課題名	採択年度	所属	研究者
埼玉大学 SU-GAPファンドプログラム ステップ0			
泌尿器系疾患診断のための尿流量計測技術およびモニタリングシステムの開発	令和6年度	大学院理工学研究科	姜 東赫
自己組織化・偏析によるキャリア選択層・光吸収層を一括形成した逆構造型ペロブスカイト太陽電池の開発	令和6年度	大学院理工学研究科	石川 良
聴覚情報刺激提示による精神的ストレス軽減技術の開発	令和6年度	大学院理工学研究科	綿貫 啓一
空港で利用可能な正確かつ高精度な位置特定技術の実現と新サービスの創出に関する研究	令和6年度	大学院理工学研究科	間邊 哲也

## ●IJIE-GAPファンド採択

研究課題名	採択年度	所属	研究者
IJIEスタートアップ創出プログラム ステップ1			
水生・湿生植物の音響放射を用いた水域の生態系保全ソリューション	令和6年度	大学院理工学研究科	蔭山 健介
レーザー・光学技術によるインライン全数検査を目指した表面形状検査装置の製造	令和6年度	大学院理工学研究科	塩田 達俊

## ●ビジネスプランコンテスト受賞

研究課題名	受賞年度	所属	研究者
栃木テックプラン グランプリ			
インライン全数検査のための3次元光形状計測法	令和6年度	大学院理工学研究科	塩田 達俊
埼玉県スタートアップ挑戦プログラム ファイナリスト			
尿噴流の映像や排尿時の音を利用したポータブルな尿流量計を開発し、尿流計測の汎用化を図る	令和6年度	大学院理工学研究科	本間 俊司

## ●SAITAMAスタートアップ・エコシステム始動

大学発のスタートアップ創出により地域経済の活性化や雇用創出などの好循環に繋げる埼玉地域のスタートアップ・エコシステム(SAITAMAスタートアップ・エコシステム)の構築を、本学を中心として始動し、令和7年3月3日に浦和においてキックオフシンポジウムを開催した。

# キックオフシンポジウム

## 2024年度

第1回  
SAITAMA スタートアップ・エコシステムシンポジウム

### 大学発 スタートアップは 地域を どう変えるか

埼玉大学は、2024年1月より国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)スタートアップ・エコシステム共創プログラムのもとで中核・北関東地域の大学等と連携し、社会を変える大学発のスタートアップを創出する地域プラットフォーム[Inland Japan Innovation Ecosystem(IJIE)]に参加し、地域の大学発スタートアップの創出と共に地域スタートアップ・エコシステムの構築を目指しています。

本シンポジウムでは、大学発のスタートアップ創出により地域経済の活性化や雇用創出などの好循環に繋げる埼玉地域のスタートアップ・エコシステム(SAITAMAスタートアップ・エコシステム)の構築に向け、大学発スタートアップが地域の発展にいかに関与できるか、先行事例から学びます。

**場 所**  
CORSO ホール (浦和駅駅)  
(<https://urawa-corso.com/guide/hall.jsp>)

**対 象**  
大学関係者、自治体、金融機関、事業化推進機関 (VC)、民間企業など

**参加申込**  
<https://forms.office.com/r/greqQR66A>  
←申込QRコード

**後 援**  
埼玉県、さいたま市、埼玉りそな銀行

**13:00 ~ 16:40**  
(情報交換会 17:00 ~ 18:30、¥3,000)

**形 式**  
会場参加のみ 100 名程度 (オンライン配信無し)

**参加料**  
無料 要事前申込 (情報交換会 ¥3,000)

**参加登録期間**  
2025 年 2 月 17 日 (月)

**共 催**  
埼玉大学、IJIE

問合せ 埼玉大学 研究機構 オープンイノベーションセンター  
スタートアップ支援部門  
Email [su@gr.saitama-u.ac.jp](mailto:su@gr.saitama-u.ac.jp) TEL 048-858-3761

**プログラム**

総合司会：堀川 真知子

13:00-13:15	<p><b>開会挨拶</b></p> <p>主催者挨拶 堀川 真知子 (埼玉大学 学長)</p> <p>来賓挨拶 文部科学省科学技術・学術政策局長 渡辺 隆一 来賓挨拶 国立研究開発法人科学技術振興機構 スタートアップ・技術移転推進部</p>
13:15-13:45	<p><b>スタートアップ創出に向けた取組紹介</b></p> <p>IJIE の取り組みを通じて大学発スタートアップの創出とエコシステム形成 角田 哲也 (香川県立高松大学 学長、学術官連携推進機構 特任教授) 埼玉大学の取組と SAITAMA スタートアップ・エコシステム構想 松岡 浩司 (埼玉大学大学院理工学研究科 教授) イノベーション創出拠点「浦和 M.I.X」について 埼玉産業労働政策推進課</p>
13:45-14:30	<p><b>基調講演</b></p> <p>「地域に産業が生まれ、育つためのエコシステムをつくる」 宮内 隆介 (株式会社リバネス 地域開発事業部 副部長 / 農林水産研究センター センター長)</p> <div>  <p>宮内 隆介 株式会社リバネス 地域開発事業部 副部長 / 農林水産研究センター センター長 千葉県大学地域連携推進機構 理事、農林水産省、大学に在り、事業として、「地域経済におけるイノベーションの創出と持続的な発展」というテーマで、地域経済の活性化とイノベーションの創出を推進してきた。2019 年、リバネスは、リバネスの地域経済活性化推進センター (スタートアップ) の発足、事業に力を入れ、自らも事業化を進め、2019 年より事業化推進センターに在り、イノベーションの創出と持続的な発展を推進している。また、地域経済の活性化とイノベーションの創出を推進している。また、地域経済の活性化とイノベーションの創出を推進している。また、地域経済の活性化とイノベーションの創出を推進している。</p> </div>
14:30-15:10	<p><b>スタートアップセッション紹介</b></p> <p>埼玉大学の研究者を中心に 10 名程度</p>
15:10-15:25	休憩
15:25-16:35	<p><b>パネルディスカッション</b></p> <p>「大学発スタートアップは地域をどう変えるか」 モデレーター 松岡 浩司 (埼玉大学大学院理工学研究科 教授)</p> <p>パネリスト： 山口 隆介 (埼玉大学大学院理工学研究科 教授) 宮内 隆介 (株式会社リバネス 地域開発事業部 副部長) 渡辺 隆一 (株式会社埼玉りそな銀行 法人部 ビジネスプラザ さいたま 所長) 大澤 佳夫 (株式会社埼玉 T.O. 代表取締役社長) 新田 博一 (株式会社産業経済新聞社 さいたま 支局長) 菅沼 大樹 (株式会社ウエブリック 代表)</p>
16:35-16:40	<p><b>閉会挨拶</b></p> <p>石井 昭彦 (埼玉大学 理事 (研究・学術官連携担当)、副学長)</p>

# 埼玉大学 産学官連携 協議会 研究会の

## 活動報告

# 埼玉 グリーンインフラSDGs 研究会

代表:藤野 毅(大学院理工学研究科・教授)  
事務局:村井 亮介(産学官連携コーディネーター)

緑区大道の耕作地にモリンガを栽培して2年目を迎えました。冬場に圃場を整備し播種を行う5月から気温が高くなりモリンガは今年も大きく成長しました。開花も確認され、近隣養蜂家の協力により圃場近くに巣箱を置いてミツバチがモリンガの花の蜜を運ぶか観察中です。モリンガ由来のハチミツが出来ればブランド化および商標登録を検討します。

モリンガ栽培によるCO<sub>2</sub>吸収の定量化は本学にしか例がなく全国から問い合わせを受けました。7月11日に佐賀県伊万里市で講演を行い、併せて熊本県のモリンガ栽培地を視察しました。次に、北隆館が刊行する月刊誌「アグリバイオ」8月号の巻頭「トップランナー」に埼玉グリーンインフラSDGs研究会が紹介されました。同誌の「研究者の広場」では“モリンガによるCO<sub>2</sub>吸収量の実態について”を寄稿しました。テレビ朝日の取材を受けて、9月23日のANNニュース内の“SDGs特集コーナー”においてモリンガ栽培による炭素固定の解説を行いました。さらにモリンガを

栽培することによる「カーボンオフセット自販機・精米機」の提案を行っています。

6月17日(月)に総合研究棟にて第1回の研究会を開催しました。昨年度の活動報告の後、内藤環境管理株式会社の加藤吉紀様と一般社団法人Green4の共同代表菅野沙織様からそれぞれ話題提供をして頂きました。ともに埼玉県内の水と土壌の環境保全に関する興味深い内容で今後の展開が期待されます。

〔協議会ニュースレター61号より抜粋〕





農と食の展示・商談会2025(さいたまスーパーアリーナ/コミュニティアリーナ、2025年2月5日)に今年もモリンガを出展しました。とても盛況で研究会ではブースに立ち寄られた67名にモリンガに関するアンケートを実施しました。6割以上が栄養価の高さについて、また3割がCO<sub>2</sub>吸収能力の高さを認識されていました。初めて研究会の活動を聞いた方を含め、モリンガを活用したビジネスに関心があると答えた方は9割に達し、半数がモリンガを活用した食品の開発・製造販売であり、また食品以外の活用(圃場整備・栽培活動・資機材提供等)での関与に関心がある方も多くいました。

2024年12月10日に研究機構棟・研修室にて第2回の研究会を開催しました。本年度で4年目を迎え、目的および活動について現活動に合わせた見直しを行いました。

活動報告として、代表の藤野研究室に所属の大学院生から5件の研究報告がなされました。また、初参加の持木准教授から脱炭素推進部門の活動紹介がなされた他、株式会社小松屋石田社長のご子息である石田航一郎さんから見沼田圃の昆虫標本の紹介がありました。

最後に、メンバーのジーピック合同会社・サッカードットコム株式会社が「さいたま市をグリーンインフラ先進地域に～見沼田圃産モリンガの挑戦～」と題してさいたま市版SOIP(スポーツオープンイノベーションプラットフォーム)に採択されました。モリンガ栽培のステークホルダーがさらに広がっています。

[協議会ニュースレター62号より抜粋]





# データサイエンス技術 研究会

代表：平松 薫(大学院理工学研究科・教授)  
事務局：金谷 康弘(産学官連携シニアコーディネーター)

研究会3年目となった2024年度の前半は、「IoTセンサによるデータ収集」をテーマにした研究会を2回連続で実施しました。IoT (Internet of Things) は「モノのインターネット」として、あらゆるモノをインターネットに接続し、情報交換する仕組みの実現を目指す概念です。その核となるIoTセンサは、インターネット経由で環境の変化や機器の動作状況を記録・分析可能にするデバイスであり、多様な場面での活用が期待されています。

連続開催1回目の第6回研究会(6月28日)では、オムロン社の環境センサ2JCIE-BU01を利用したハンズオンを実施しました。2JCIE-BU01には、温度・湿度・照度・気圧・騒音・3軸加速度の各センサがUSBメモリサイズの筐体に搭載されており、Pythonで作成したプログラムでデータ収集できることをハンズオンで確認しました。研究会終了後、参加者に環境センサをお貸しし、それぞれの環境でのデータ収集とその分析を宿題としました。

連続開催2回目の第7回研究会(8月2日)では、宿題発表をワークショップ形式で実施しました。空調機器の効果検証、作業環境へのPC排熱の影響、生産現場や屋外設置機器の環境データ計測、環境センサが出力するデータの精度検証などについて、活発な議論が行われました。

2024年度後半は、テキスト分析をテーマとした研究会を2回予定しております。皆様の業務に役立つ新たなヒントや最新技術に関する情報をご提供する予定ですので、皆様の研究会への引き続きのご参加をお待ちしております。

[協議会ニュースレター61号より抜粋]



2024年度後半の1回目は、埼玉大学教育機構基盤教育研究センターの市川裕介教授に講師をお願いし、「テキストデータの解析と産業応用」と題して実施しました。(2024年10月10日(木)開催)

テキストデータは、メール、営業日報、各種報告書、顧客アンケートやカスタマーサポートの応答記録など、身近に存在する文字で書かれた情報であり、時間とともに徐々に蓄積されていくデータの一つです。この分析によって、様々な知見が得られることが期待されますが、分析が容易な表形式の数値データとは異なり、さまざまな前処理が必要となります。研究会では、講義とGoogle Colabを使ったハンズオン演習を組み合わせ、テキストデータの前処理の基本から分析結果の可視化までを、わかりやすくご紹介いただきました。

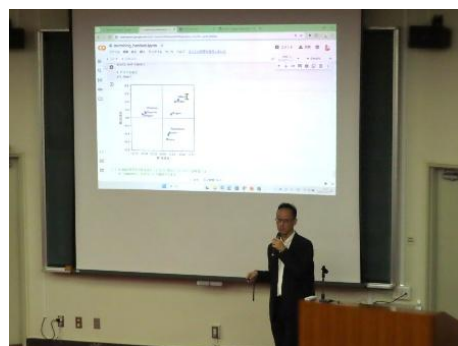
また2024年度後半の2回目は、「生成AI

の仕組みと使い方」と題して実施しました(2025年3月6日(木)開催)

前半の座学で、ChatGPTに代表される自然言語処理系の生成AIでは、質問の入力の仕方により得られる結果が大きく変化することを紹介し、後半のグループワークで、参加者それぞれがうまくいった事例・うまくいかなかった事例を共有し、背景事情も含めて議論していただきました

この3年間、多くの方々に研究会にご参加いただくことができました。代表として、皆様のご支援とご協力に深く感謝を申し上げます。今後も、皆様の業務に役立つ新たなヒントや最新技術に関する情報を発信していく予定です。引き続き、ご参加をお待ちしております。

[協議会ニュースレター62号より抜粋]



# 金属積層造形技術 研究会

代表:金子 順一(大学院理工学研究科・教授)  
事務局:宇田川 秀幸(産学官連携コーディネーター)

金属積層造形(AM)技術は新たなものづくり技術として欧米のみならず国内でも注目され、多種の製品製造の手段として導入が進んでいます。ただ、実用化にあたっては未だ、設計・加工・品質保証など各段階における様々な技術的課題が存在しており、産学の連携による課題解決が今後ますます重要となると考えられます。

本研究会では、今年度上半期に、第6回研究会を埼玉県入間郡三芳町の三芳合金工業で、第7回見学会を青森県八戸市のエプソンアトミックス株式会社 北インター事業所で開催いたしました。三芳合金工業では、NC合金をはじめとする特殊銅合金の精製および鍛造技術の紹介をいただきました。用途に合致した銅合金を迅速に精製し、部品加工まで実施して出荷する体制が高い関心を集めていました。

エプソンアトミックス株式会社では、腕時計やプリンタ等の微細金属部品の製造において使用される金属射出成形と、独自の超微細金属粉末の大量生産法である水アトマイズ法、およびアモルファス合金粉末の超高压水アトマイズ製法であるS.W.A.P.法のご紹介をいただきました。当社の微細金属粉末の製法は他の手法に比して大幅なコストの抑制を可能としており、AMIによる製品量産に大きく貢献すると高い関心をあつめていました。

[協議会ニュースレター61号より抜粋]



金属積層造形(AM)技術は新たなものづくり技術として欧米だけでなく国内でも注目され、多種の製品製造へ導入が進んでいます。しかし、実用化を進めるにあたり設計・加工・品質保証など各段階において様々な技術的課題があり、産学連携が重要であると認識しています。

第8回研究会を2025年2月4日(火)に埼玉県産業技術総合センターにて実施しました。当センターは埼玉県デジタルものづくり研究会を主宰しており、当会との共催という形で実施されました。そのため会員以外にも多くの方にご参加いただきました。当日は金属積層造形技術研究会の情報交換会として、参加した委員からこれまでの金属積層造形に関する取り組みや市場動

向などお話しいただき、技術動向を共有しました。そのほか大陽日酸株式会社の尾山様から最新の技術動向や活用事例についてご紹介いただきました。埼玉県産業技術総合センターの南部様からは埼玉県デジタルものづくりの活動報告やセンターの見学を実施していただきました。

当研究会は本年度の活動をもって一区切りとなります。会員の皆様に高い関心をお寄せいただき、これまで活動することができましたことをこの場をお借りしてお礼申し上げます。

[協議会ニュースレター62号より抜粋]





# 自動化のための 力覚検知技術 研究会

代表:辻 俊明(大学院理工学研究科・准教授)  
事務局:藤山 斉(産学官連携コーディネーター)

近年、人の手のような感覚を持たせるための「力覚検知センサ」を搭載し、微細な力加減を必要とする熟練作業(組立や研磨等)の自動化ニーズが高まっています。このニーズに応えるため、2023年に「自動化のための力覚検知研究会」が設立されました。本研究会は、まだあまり知られていない力覚検知センサ技術の基礎・応用技術を広め、今後の社会・産業界のニーズ解決に貢献することを目的としています。

第1回研究会は2023年6月14日に開催され、力覚検知センサを用いたロボット技術の背景、基礎技術、応用展開、具体的ニーズについての講演が行われました。続く第2回研究会は昨年11月8日に開催され、第1回で紹介された力覚検知センサを搭載した実機デモの見学が行われました。実機デモを見ながら、その構造や動作についての説明を受けました。

第3回研究会は2024年6月17日に開催され、最新の技術動向についての講演と意見交換が行われました。内容は生成AIについての説明、AIの歴史とChatGPT、生成AIを活用したロボット技術、そして研究室における最近の研究状況と今後の計画について取り上げました。

皆様には、「力覚検知センサ」について一通り知っていただけたと思いますので、当初の予定期間より少し短いですが、第3回をもちまして解散することといたしました。これまでご支援ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。特に、各企業の皆様には、貴重なご意見やご提案をいただき、今後の研究の参考にさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

[協議会ニュースレター61号より抜粋]



# 人と協同する ロボット技術 研究会

代表：小林 貴訓(大学院理工学研究科・教授)  
事務局：藤山 斉(産学官連携コーディネーター)

昨年度から活動を始めた「人と協働するロボット技術研究会」の第3回目の研究会を2025年2月28日(金)に開催し、企業を中心とした31名の方々の参加を頂きました。

研究会では、まず、群馬大学の福田悠人氏に、「人と協働するロボットとしてのクルマのHMI研究」と題して、自動車の運転支援機能を例として、ユーザへの潜在的な危険性の通知手法についての研究事例をご講演頂きました。停車中の車両の陰から人が飛び出す可能性などの潜在的な危険性をドライバーに提示することで、注意を促す方法について分かりやすくご説明頂きました。人と協働するロボットの振る舞いを見える化する取り組みの一例としても大変興味深い内容でした。

次に、筑波大学の山田亮佑氏に「数式から創る、安心・安全なロボット視覚のための画像認識AI」と題してご講演頂き、前回の研究会から引き続き、AI開発における「学

習データ」の可能性と危険性について議論しました。ご講演では、学習データに係る課題を、数式に基づいた公平で利便性の高い学習データを利活用することで解決する取り組みについてご紹介頂き、活発な議論が行われました。非常に先進的な内容でしたが、平易にご説明頂き、大変興味深いご講演となりました。

本研究会では、技術的な内容だけでなく、センシング技術やロボット技術の活用の可能性について、様々な分野の企業の皆様と意見交換をさせて頂きたいと考えております。研究会へのご意見・ご要望をお待ちしております。

[協議会ニュースレター62号より抜粋]



# スタートアップ・ 新規事業創出 研究会

代表：赤羽根 康男（オープンイノベーションセンター・客員教授）、本間 俊司（オープンイノベーションセンター・教授）  
事務局：藤山 斉（産学官連携コーディネーター）

我が国は、経済成長の鈍化や少子高齢化、雇用創出の必要性、イノベーションの推進など、多くの課題に直面しています。こうした背景のもと、スタートアップやアントレプレナーシップの重要性がますます高まっており、新しいビジネスモデルや技術革新が期待されています。そこで、本協議会においてもスタートアップ企業に対する理解を深め、埼玉大学及びその協議会会員の起業家精神を促進し、新しいビジネスアイデアやイノベーションの創出を目指す「スタートアップ・新規事業創出研究会」を設立しました。

2024年7月19日に、埼玉大学で第1回研究会が開催され、埼玉県産業労働部、埼玉中小企業家同友会、さいしんコラボ産学官、株式会社埼玉りそな銀行、東日本電信電話株式会社、株式会社デジタルベリーからの代表者と、埼玉大学の関係者を含む合計17名が参加しました。

当日は、研究会代表の赤羽根が、今後の研究会の活動内容について紹介し、同じく代表の本間が埼玉大学のアントレプレナーシップ教育に関する取り組みについて説明しました。各機関からはスタートアップに関連した取り組みが紹介され、その後、参加者全員で意見交換会が行われました。この意見交換会では、スタートアップ企業の支援や新規事業創出のための具体的なアイデアや提案が積極的に出され、充実した議論が交わされました。

次回の研究会は2024年11月末に開催される予定です。詳細な日程や内容については、後日お知らせいたします。また、第2回目以降の参加希望者を募集中です。ご興味のある方は、ぜひ事務局までご連絡ください。新たなビジネスの芽を育てるこの研究会にご期待ください。

[協議会ニュースレター61号より抜粋]



2024年11月27日(水)、第2回 スタートアップ・新規事業創出研究会が、埼玉大学総合研究棟1号館シアター教室・ホールにて開催されました。当日は、学外からの参加者37名、学生17名、教職員18名の計72名が集まり、スタートアップ支援やアントレプレナーシップ教育についての議論が活発に行われました。

当日は、埼玉大学におけるアントレプレナーシップ教育への取組、スタートアップ支援の現状、および県内での新規事業創出の取り組みについて紹介が行われ、大学発スタートアップの動向なども共有されました。講演後のディスカッションでは、参加者同士が積極的に意見を交わし、起業に関する課題や支援策について多角的な視点から考察が深められました。

また、情報交換会では学生も交えた交流が行われ、異なる分野の専門家や起業を志す若者たちが活発に意見を交換する場となりました。産学官の垣根を越えたネットワークの構築が促進され、今後の連携や協力の可能性が広がる貴重な機会となりました。

今後も本研究会では、スタートアップや新規事業創出に関する情報共有やネットワーキングの場を提供し、イノベーションの創出を支援していきます。次回の開催についても、ぜひご期待ください。

[協議会ニュースレター62号より抜粋]





# 防災DX 研究会

代表: 齊藤 正人(大学院理工学研究科・教授)  
事務局: 金谷 康弘(産学官連携シニアコーディネーター)

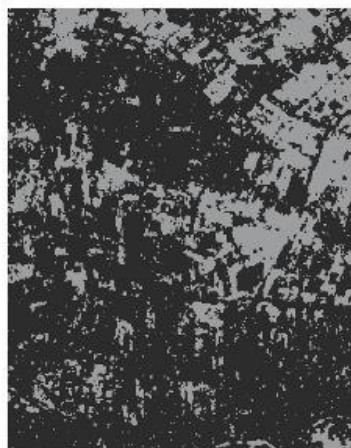
今年6月に開催された2024年度埼玉大学産学官連携協議会総会にて、防災DX研究会設立を承認いただきました。本研究会は、防災DX技術の基礎・応用技術を習得し、埼玉大学並びに協議会会員の技術シーズを深化・発展させ、社会・産業界のニーズ解決に貢献することを目的としています。また、産学連携での研究会活動を通じ、研究成果の技術情報の公開、ステップアップのための補助金の獲得・共同研究の実施、継続的活動のためのフレームワーク形成に繋げて行くことを目標とします。

まだ研究会の活動は緒についたばかりですが、昨年度より防災デジタルトランスフォーメーションに関する勉強会を開始し、埼玉大学堤田先生が研究開発中のコンステレーション衛星データ解析技術(高頻度観測画像から防災情報、例えば浸水の状況を把握するなど)や、あいおいニッセイ同和損害保険様が取り組んでいる地方創生プ

ロジェクトの活動内容、そしてMS&ADインターリスク総研様のデジタル・データ活用取り組みなどについて、相互に紹介し情報交流を進めています。

今後は埼玉県や県下市町村の防災担当者向けに防災DXのセミナーを開催し、デジタルを駆使した地域防災の向上を目指します。研究会へのご意見・ご要望をお待ちしております。

[協議会ニュースレター61号より抜粋]



主な活動として2024年11月12日(火)に「防 災DX研究会セミナー～防災活動の最新動向を学ぶ～」を開催しました。本セミナーでは、デジタルテクノロジーを活用した地域防災の取り組みや研究動向について、地域自治体の防災担当者や地元企業の皆様と情報共有し、地域防災の向上に貢献することを目指しています。

今回は、防災DX事例紹介として、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社の多嘉良朝恭様より「市民参加型防災のご提案」と題して、ソーシャルネットワーキングへの投稿情報を様々な発災フェイズで活用する技術や事例についてご紹介を頂きました。またMS&ADインターリスク総研株式会社の堀江啓様より「災害予測情報の活用に向けて」と題して、地域や社会の防災・減災を支援するWEBサービスの最新情報や災害予測情報の活用事例等の話題提供を頂きました。埼玉大学からはレジリエント社会研究部門の堤田成政准教授より「人工衛星観測データをもちいた洪水浸水域推定」と題した研究事例紹介がありました。また、

水害被害地域の迅速かつ正確な把握を実現するための、衛星観測網を活用した先端技術の解説を頂きました。

本セミナーは34名のご参加があり、防災DXに関する活発な質疑応答が展開されました。またアンケートでは、「最新の技術動向について、知識を得ることができた」「人脈形成できた」などと好評でした。今後も継続してセミナーを開催する予定です。

[協議会ニュースレター62号より抜粋]



# 埼玉大学産学官連携協議会

埼玉大学産学官連携協議会は、埼玉県内の経済団体\*と埼玉大学が設立発起人となり、2000年に設立された任意団体です。協議会会員企業等と埼玉大学の研究とを有機的に結びつけ、地域産業の一層の発展を図ることを目的としています。産学交流事業、研究会活動、人材確保支援事業などを行っています。

\*埼玉県経営者協会、埼玉経済同友会、埼玉県商工会議所連合会、埼玉県商工会連合会、埼玉県中小企業団体中央会、埼玉県中小企業振興公社（現埼玉県産業振興公社） 法人格名略

## 会員特典

### 1. 研究会に参加できます



- ①埼玉クリーンインフラSDGs研究会
- ②データサイエンス技術研究会
- ③金属積層造形技術研究会
- ④人と協働するロボット技術研究会
- ⑤スタートアップ・新規事業創出研究会
- ⑥防災DX研究会 が活動中です。新規テーマ随時募集中！

### 2. 産学交流会(テクノカフェ等)に参加できます



大学・企業等の最先端の研究成果や技術紹介と、大学と企業等のマッチングを図るオープンイノベーションの場に参加できます。

### 3. 埼玉大学の学生採用のチャンスがあります



会員企業が埼玉大学の学生・留学生に対して魅力を発信する機会（企業説明会）に参加できます。＜年1回＞

### 4. 埼玉大学科学分析支援センターが活用できます



大型分析機器を多数保有！  
科学分析支援センターでの依頼分析を協議会会員料金（規定料金の1/2）でご利用いただけます。

### 5. 企業活動に役立つ最新情報をお届けします



ニュースレター（年2回発行）とインフォメーションメール配信により研究シーズや会員企業紹介・最新のイベント情報などをお届けします。

## 入会方法

#### 会員種別

- 1. 正会員は、本会の事業に賛同する団体または個人とします。（企業規模、業種等の条件なし）
- 2. 公的な団体及び地方自治体等は、賛助会員として入会することができます。

#### 年会費

- 1. 正会員：1口3万円を1口以上 / 2. 賛助会員：無料

#### 申込方法

入会をご希望の方は、入会申込書に必要事項をご記入のうえ事務局あてにメールで送付ください。



詳細はこちら

埼玉大学産学官連携協議会事務局

〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255（オープンイノベーションセンター内）

☎ (048)858-9064 ✉ s-kyougikai@gr.saitama-u.ac.jp



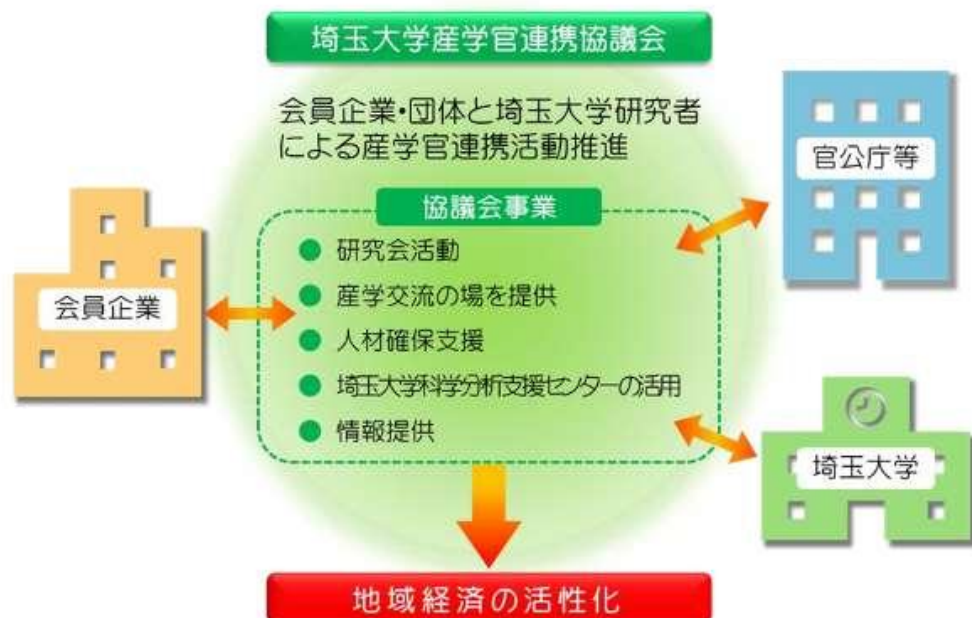
## 埼玉大学産学官連携協議会のご案内

埼玉大学産学官連携協議会は、平成12年に埼玉県内の経済団体\*と埼玉大学が設立発起人となり、協議会会員企業等と埼玉大学の研究とを有機的に結びつけ、地域産業の一層の発展を図ることを目的に設立された任意団体です。

本協議会では、協議会会員企業等の経営者および技術者と埼玉大学の研究者との交流の場を提供する産学交流事業、埼玉大学からの各種情報発信、また共同研究等への発展が期待される課題解決に向けた研究会活動などを行っています。

\*埼玉県経営者協会、埼玉経済同友会、埼玉県商工会議所連合会、埼玉県商工会連合会、埼玉県中小企業団体中央会、埼玉県中小企業振興公社(現埼玉県産業振興公社) 法人格名略

### 埼玉大学産学官連携協議会の役割



### 組織の概要

設立	2000年(平成12年)7月
会員数	正会員 182 社 賛助会員 59 団体 計241
年会費	正会員1口 30,000円(1口以上)
会長	増田 文治(株式会社マสดック 代表取締役会長)
副会長	後藤 誠(株式会社エヌ・ワイ・ケイ 代表取締役社長)
副会長	石井 昭彦(埼玉大学 理事・副学長)

### 主な事業内容

- 複数の会員による研究会活動  
(埼玉グリーンインフラ SDGs 研究会、データサイエンス技術研究会、金属積層造形技術研究会、人と協働するロボット技術研究会、スタートアップ・新規事業創出研究会、防災 DX 研究会)  
※新規テーマ随時募集中
- 産学官交流の場の提供(産学交流会テクノカフェ等)
- 人材確保支援(合同企業説明会)
- 埼玉大学科学分析支援センターの割安な利用
- 情報提供(ニュースレター配布、インフォメーションメール随時配信)

2024年10月15日版

# 埼玉大学産学官連携協議会会員入会申込書

申込日 年 月 日

埼玉大学産学官連携協議会事務局 行（必要事項をご記入いただき、メールにてご送付ください。）

E-mail: [s-kyougikai@gr.saitama-u.ac.jp](mailto:s-kyougikai@gr.saitama-u.ac.jp) (Tel:048-858-9064)

企業(団体)名 \_\_\_\_\_

ふりがな \_\_\_\_\_

業 種 (いずれかの□にチェック✓をお願いいたします。) ※日本標準産業分類による。  
☐ 製造業(併せて、以下のいずれかに○をしてください。)  
     ①食品・飲料・たばこ・飼料製造業      ②化学工業、石油・石炭製品製造業  
     ③鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業      ④はん用・生産用・業務用機械器具製造業  
     ⑤電子部品・デバイス・電子回路製造業      ⑥電気・情報通信機械器具製造業  
     ⑦輸送用機械器具製造業      ⑧その他製造業  
☐ 運輸・郵便業    ☐ 建設業    ☐ 電気・ガス・熱供給・水道業    ☐ 情報通信業  
☐ 卸売・小売業    ☐ 学術研究専門・技術サービス業    ☐ 生活関連サービス業・娯楽業  
☐ 金融・保険業    ☐ 複合サービス事業    ☐ 公務    ☐ その他 \_\_\_\_\_

事業内容 \_\_\_\_\_

企 業 (団 体) 概 要					
住所	〒 _____				
TEL	_____	FAX	_____		
ホームページアドレス	_____				
代表者氏名	_____	ふりがな	_____	役職	_____
設立年月日	_____	事業所	_____		
資本金	_____ 円	売上高	_____ 円	従業員数	_____ 人

協議会との窓口担当（事務連絡等担当いただける方）			
住所	〒 _____		
TEL	_____	FAX	_____
メールアドレス(複数可)	_____		
担当者所属	_____	役職	_____
担当者名	_____	ふりがな	_____

自社紹介（得意とする分野や主力商品などご記入ください。※欄が不足する場合は、別紙添付可）	
<div style="height: 80px; border: 1px solid black;"></div>	
入会経緯・紹介者（差し支えなければご記入ください。）	
<div style="height: 40px; border: 1px solid black;"></div>	

会費振込先 (予定)	(いずれかの金融機関に✓をお願いいたします。) <input type="checkbox"/> ゆうちょ銀行 <input type="checkbox"/> 埼玉りそな銀行 <input type="checkbox"/> 武蔵野銀行 <input type="checkbox"/> 埼玉縣信用金庫
年会費口数	_____ □ (1 □ 30,000 円)

※協議会事務局記入欄

会員番号	入会資料	年会費確認	年 月 日
会員区分    正会員    賛助会員	備 考		